

## 「誰一人取り残されない」不登校対策

不登校児童生徒を受け入れる「不登校特例校」は、2023年3月時点で全国21校設置されていますが、一人1台端末の活用による自宅等でのオンライン指導を受けられる「学びたい時に学べる環境」を整備し、毎日の心身の健康状態の早期把握につなげるなど、文部科学省は、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLOプラン)をまとめ、3月末、全国の教育委員会教育長等に通知しました。

約30万人に上る不登校生徒児童のうち、約15%が学校内外の専門機関で相談・指導等を受けていない現状から、同プランの骨子は、「不登校生徒児童が学びたい時に学べる環境の整備」とし、**不登校特例校**や**校内教育支援センター**の設置などを進めるとしています。個々のニーズに応じた受け皿を整備することで児童生徒、保護者に必要な支援を行うということです。

- ① 「**不登校特例校**」を**早期に全都道府県・政令都市に設置**し、将来的には希望する児童生徒が身近に通えるよう300校程度の設置を目指すとしています。運営には、支援実績を考慮し、NPO、フリースクール等の民間施設との連携を通して体制の構築・ノウハウの共有を行います。
- ② 「**校内教育支援センター**」は、自分のクラスに入りにくい児童生徒が、**落ち着いた空間で、自分の学習ペースで学習・生活できる校内の空き教室等を活用した部屋のこと**です。支援スタッフや学校ボランティアの活用・協力を求めます。

### 望まれる内容

- ・ICTを活用し、「教室以外の学習等の成果と適切な評価」  
(可能な限り指導要録上の出席扱とし、進学希望により成績評価に反映することが望まれます)
- ・「学級替え、転校等の柔軟な対応」  
(いじめや教員の不適切な指導がある場合、適切な配慮が可能となります)
- ・「高等学校等の生徒を含めた支援」  
(中学校卒業での支援が途切れないよう電話・オンライン活用でのSC、SSWの支援など)  
(改めて中学校等で学び直したい者への夜間中学校の入学要件等の説明をします)

## この春よく購入された教育書

同業者や教育に関心を持たれている方の購入書籍を読むことで、新たに得られることも・・・。

- ① 発達障害の人が見ている世界 岩瀬利郎/著 アスコム 1595円
- ② 考える。動く。自由になる。-15歳からの人生戦略 工藤勇一/著 実務教育出版 1650円
- ③ 東大よりも世界に近い学校 日野田直彦/著 TAC出版 1760円
- ④ 生産性が爆上がり!さる先生の「全部ギガでやろう!」 坂本良晶/著 学陽書房 1980円
- ⑤ イラストで見る 全活動・全行事の学級経営のすべて 小学校1年  
熱海康太/編著 東洋館出版社 2860円
- ⑥ 最新教育動向2023 必ず押さえておきたい時事ワード60&視点120  
教育の未来を研究する会/編 明治図書出版 2200円
- ⑦ 映える!すぐ作れる♡教室で役立つほめられアイテム  
金子真弓/著 樋口万太郎/監修 学陽書房 2090円
- ⑧ 自治的なクラス、進んで動く子どもが育つ 学級システム大全  
有松浩司/著 明治図書出版 2266円
- ⑨ 小学1年 学級経営ペディア 『授業力&学級経営力』編集部/編 明治図書出版 2750円
- ⑩ 新年度ここで差がつく!教師1年目のスタートアップ 高橋朋彦/著 学陽書房 1980円
- ⑪ 中学の学級開き 黄金のスタートを切る3日間の準備ネタ  
長谷川博之/編著 学芸みらい社 2200円

## こんな教具が リーディングルーペ

通級指導の際に効果を上げている教具を紹介します。

子どもの中には、文章を読む時、眼球をうまく動かすことができずに読んでいる行（ぎょう）が分からなくなってしまうたり、行を読み飛ばしてしまったりする子どもがいます。その経験を積み重ねていくことで、読むことへの苦手意識を持つようになってしまうことも多々あります。

そういう苦手意識の形成を減らすために、こんな教具があります。もう既に使用されている先生方もおられるかもしれません。

「リーディングルーペ」というものです。いろいろなものがありますが、お薦めは、ものさしのような形状（15cmと21cmがあります）をしていて、教科書にのせた時、読みたい部分に色が付き、文章が拡大されて見える機能があるものです（キハラ社）。ルーペの色は、ライトグリーンとイエローがあるので、子どもが使いやすい方を選ばせてあげると、使ってみたいという気持ちが高まります。

在籍学級でも使えると読むことに抵抗感がなくなり、自信を持って国語の授業に臨めるようになったという報告もあがっています。また、通級児童以外でも自由に使えるようにすることで、学習支援ツールを誰でも当たり前に見える雰囲気が出てきます。

興味のある方は、一度調べてみてください。

## 「解釈力」リーダーに必要不可欠

「解釈力」は、リーダー・管理職に求められる能力の中でも、特に重要なものです。物事をどのように認識するかは、その解釈に懸かってきます。

明治時代初期、まだ日本では多くの方が牛乳を飲む習慣がありませんでした。そのとき、二人の若者がいました。一人は「日本では、外国人のように牛乳を飲む習慣がないので商売にはならないだろう」と考えました。もう一人は「日本ではまだ牛乳を飲む習慣がないが、飲む習慣をつければ大きな商売ができるだろう」と考えました。

これは解釈というものを考える上で示唆に富んだエピソードです。同じ出来事でも、真逆の認識となることもあります。この違いはどこから生まれるのでしょうか。それは、できないという否定的視点で見ると、できるという肯定的視点で見るとの差ではないでしょうか。

学校経営・運営の中での様々な懸案事項も、視点によって見え方が随分変わってきます。子ども、保護者、地域の方、教職員にとってプラスと働く、喜びとなる解釈をすることで、懸案の解決や成長の方向に進むことが多いのです。全ての事象に対して、勇気と力を与えてくれる解釈を見つけることがリーダー・管理職の大きな役割です。

そう考えると、どのようなことが起きても前向きな解釈を選択することが成功といえるでしょう。

出来事を制御することはできませんが、起きた出来事の解釈を制御することはできます。リーダーの究極の能力は、出来事の意味を制御することだと言っても過言ではありません。

もちろん、自分中心の勝手な解釈をするのではなく、謙虚で公正な視点で、肯定的な大義名分を見いだすということです。学校経営・運営を行うに当たり、自分が実行しようとしていることに大義名分があるか否かを常に問い続けることが必要となります。私心から出たものに大義名分はありません。

どのように解釈すればよいか迷った時には、自校のみならず、他校も含めてその解釈は良いものであるのかどうか、さらに学校のみならず地域や社会にとって良きことかと、その範囲を広げて考えていきましょう。誰かの意見を聞くことも良き解釈の一つになるかも知れません。メタ認知を高め、自分自身を客観的に俯瞰できる視点に立つのもその一つとなるでしょう。そうすればおのずと進むべき道が見えてくるはずですよ。

